

手賀沼が海だったころ



松ヶ崎城跡の再生に樹木の里親を募集



多くの方々が参加、次への一歩が踏み出されます。

会長代行 川上 利男

松ヶ崎城跡が柏市によって10年間の借り上げが決まって1年余。公開されてから10か月が過ぎようとしています。杉が伐採された後の城跡をどのようにしようかと考えてきましたが、まず緑のある環境を取り戻し、皆が楽しく遊びながら、歴史に理解を深めてもらえる場所にしようと言う事が決まりました。

その手段として、より多くの市民に参加してもらえ「樹木の里親」方式を採用、1月半ばから柏市の広報をはじめ、さまざまな手段を使って募集を行ないました。

まだ最終結果ではありませんが、180名以上の方々に応募して頂き、2月28日に植樹式を行なう事になりました。この里親制度は2年にわたって展開する予定で、初年度は50本の河津桜を植え、2年目は少し大きなシンボルツリーを植える予定です。

植樹後は柏市に寄贈し、管理していただきます。また、里親になって頂いた方々のお名前は、一本一本に記すのではなく、大きな看板を作りそこに記名させていただきます。里親の皆様には今回植えた樹木だけでなく、従来から有ったもの、これから植えて行くものも含めて、この山にある全ての樹木の里親になったつもりで愛情を注いで頂きたいと思っております。

文化の破壊者とならないために

私達の会は、地域の歴史を勉強すると共に、駅頭での展示会、署名、更には市議会への請願など、歴史的遺産の保

存に取り組んできました。柏市による「松ヶ崎城跡の文化材指定」と「10年間の借り上げ」はその成果であり、今回の植樹は「次への一歩」であると思っております。

20世紀後半から21世紀は、これまでにない速さで科学が進んでいます。進歩の度合いがそれまでと比べ物にならないのです。経済も生活も高度に発展してきました。

ただ発展の美名のもとで、私達は多くのものを壊してきました。食文化や生活習慣を含め日本人が長い間に創り上げたものが、わずか1世紀のうちに数多く無くなるようとしています。建設重機の進歩は開発のスピードと内

容を変えました。埋蔵されている史跡は従来と比較にならないくらい速く、深く破壊されてきました。

20世紀後半を生きてきた私達が、後世の人達から「文化の破壊者」と言われないように、残すべきものは残し、しっかりと後世に引き継いでいく責任があります。

木は植えられました。私達はこれから参加してくれた方々と一緒に育てて行きたいと思っております。松ヶ崎城祭りや、歴史見学会などの行事と一緒に楽しみながら、自然環境や歴史への関心をより広く深くもって頂けたら幸いです。

松ヶ崎城跡 樹木里親の皆様へ

松ヶ崎城跡は史跡の宝庫と言ってもいい程多くの歴史が埋まっています。分かっているだけでも、1万年前の縄文早期を始めとする縄文期の土器類が出土、古墳は3基あります。平安時代の住居跡などが確認されています。

メインとなる中世の城郭は虎口(こぐち)や空堀や土塁、それに敵の侵入を防ぐための柵跡なども見つかっています。江戸期になると、お城の腰郭(こしぐるわ)を利用したお不動様が立てられました。お不動様は残念ながら10年程前に焼失してしまいましたが「三郡境のお不動様」といってとても信仰されています。

この歴史のいっぱい詰まった松ヶ崎城跡を花と緑でいっぱいにして、多くの人達に楽しみながら、柏の歴史を知ってもらい、そして未来に残すために皆様に樹木の里親になって頂きました。

里親の皆様には、今回植樹した木だけでなく、この山全体の木や草の里親になったつもりで、かわいがっていただきたいと思っております。時々見に来て下さい。私達はこの山を舞台として、お城祭りや歴史見学会などをやりたいと思っています。一緒に遊んで頂きたいと思っております。

歴史の山です。これからは皆様一人一人の足跡を残し、歴史を作っていくして下さい。

平成22年2月28日

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会



Note

手賀沼沿岸の城、身近な城

森 伸之

千葉県の北西部は、近年都市化が進み、中世の城郭跡などの遺跡はかなりの部分が破壊されている。松ヶ崎城跡など、例外であり、よくぞ今まで500年もの間、残ってきたものだと思う。

小生の地元である船橋市には、15ほどの中世城郭があったとのことであるが、遺構が多少でも残っているのは夏見城跡、高根城跡、金杉城跡、八木ヶ谷城跡、小野田城跡くらいと少なく、また残存遺構も部分的なものに過ぎない。

その点、手賀沼沿岸の城跡は、破壊されたものもあるが、松ヶ崎城跡を含む一部の城跡はよく保存されている。中世城郭は、もともと中世以来の集落には大抵存在するもので、古墳や貝塚などと違って、日本中どこにでもある遺跡である。ただし、豊臣政権下での一国一城令により多くが破却された。それでも江戸時代以降も残ってきた城跡も多かったが、近代以降の耕地開発や、特に高度経済成長時の工業団地や住宅地などの開発により、いつの間にか、全国各地から多くの中世城郭跡が調査もされないまま消滅していったのである。

手賀沼沿岸地域の城は、手賀沼沿い、あるいは手賀沼に注ぐ水系沿いの台地上に殆どが分布し、「舟戸」「船戸」など「戸」のつく地名が城館のまわりに存在していることが多く、水上交通の拠点であった。

陸上交通も発達し、近世の水戸街道に近い道も存在した模様で、松戸方面～篠籠田～大堀川沿い～我孫子方面へ通っていた。

松ヶ崎城も、そうした手賀沼沿岸地域の城の一つで、手賀沼と近世の水戸街道の交点に近い交通の要衝であった。

去る2006年4月30日、有志3名で、柏市箕輪にある箕輪城跡を訪ねたことがある。これは戦国末期の技巧を凝らした城。現在、城跡西側には手賀沼病院が建っていて、主郭である第1郭の中央部分が駐車場となり、第4郭全部と第3郭の西よりの一部が病院の建物などが建って破壊されているものの、第1郭周辺の二重堀と腰郭、第2郭全体と第3郭の東側が残っていた。

城域は手賀沼に突き出した台地上にあって、東西約280m、南北180mと東西に広がり、4郭程存在したうち、ほぼ半分の遺構が現存する。

松ヶ崎城跡に近い根戸城跡は、大部分の遺構が残されている。松ヶ崎城が15世紀後半から16世紀初め、つまり足利將軍家の威光が衰え、戦国初期の北条早雲などが活躍したころの城であるのに対して、根戸城は土塁や堀の構造からみて、戦国中後期の特徴を備えている。

この根戸城跡も手賀にある手賀城跡、さらに箕輪城跡も、城跡の周辺に「舟戸」あるいは「船戸」などと呼ばれる地名が残り、船着場があったとされる。実は松ヶ崎城も船着場があったという伝承があるが、こうした水運を背景に出来たと思われる城を「水辺の城」と呼んでいる。

今では内陸部と思われている本佐倉城も、かつては印旛沼（印旛浦）の水運を背景とした城であった。それは、下総の守護大名である馬加系千葉氏の居城であったが、古河公方足利成氏のいた古河と行き来をしたり、各地から運ばれる物資を集積するのに立地がよいために、本佐倉の地に築かれたという。

手賀沼から少しはずれるが、手賀沼に注ぐ大津川、金山落しなどの河畔にも増尾城跡など城跡は多い。

面白いのは、川の両岸に対抗するようにある城跡で、例えば大津川下流では大井追花城跡と戸張城跡。この戸張には、相馬氏一族の戸張氏がいたが、古河公方側ではなく関東管領上杉氏側の勢力であった。この戸張城主と向岸の大井追花城主が長年の敵同士で、合戦の時に城主同士が組み合い、どちらかが相手の鼻を食いちぎったという伝承が残されている。

金山落しでは、柏市藤ヶ谷の藤ヶ谷城に拠った相馬氏と対岸の富塚城の勢力が合戦し、川を挟んで互いに矢を射たところ、川のなかに矢が落ちて山のようになり、その場所を矢の橋と呼んだという伝承がある。

こうした話は、あくまで伝説であるが、領地境で戦国時代によくあった土豪の小競り合いが口碑となって伝わったものではないだろうか。

そういう伝承も踏まえて、身近な城跡めぐりをしてみると面白いかもしれない。



Event

第1回目の松ヶ崎城まつり



城まつりののぼり旗を台地中段にたて、手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会主催の松ヶ崎城まつりは、2009年11月15日(日)午前10時15分から午後4時まで行われました。

幸い天候に恵まれ、雨が降った前日とはうってかわり晴れて暑いくらい。

午前10時15分からのオープニングでは、松浦洋子さんの太鼓と笛、川喜多瑤子さんの太極拳で場がしまりました。

午前、午後2回の見学会には、のべ100人くらいの方が参加されました。明治、大正の演歌や三味線を弾きながらの不思議囃は、茗荷さん。「松ヶ崎城節」を今回のために新しく作って頂きました。

それからネイチャーゲームでは、子供さんに楽しんでもらいました。会による地元野菜・千葉大から仕入れた花の販売や、松葉町のフェアトレードショップ・アーシアンさんによるアジアの小物・雑貨等の販売も行われました。

第1回目、地味なまつりになりそうな予測もありましたが、結局300人以上の人出となりました。



【見学会】

東側物見台付近から西側虎口まで

今回の見学会の説明は、当会役員が行いました。まず、台地東側にのぼってもらい、物見台付近から見学を始まりました。

物見台は、古墳を利用したものです。物見台も含めて、古墳は三基あります。土塁や堀、虎口の様子などを見てもらい、城の構造や特徴について解説しました。

参加者からもいろいろ質問が出ましたが、近隣の城(根戸城)との関係や戦国時代の在地勢力などについて、かなり専門的な質問も出ました。

西側虎口から南側へ

西側虎口の「食い違い」の状態を見てもらった後、南側の腰郭にも回りました。不動尊のあった腰郭では、絵馬のコピーを掲示し、焼失する前の不動尊の様子や絵馬に描かれた風物について説明を行いました。

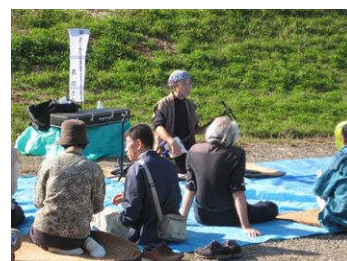
【演芸と園芸?】

明治、大正の演歌など

今回、当初予定していた演者が体調不良などで出演できず、出て頂いた方は直前に頼まれた人ばかり。「オッペケペー節」、「東京節」といった明治、大正の演歌を歌った茗荷さんは、急なお願いにも関わらず、「松ヶ崎城節」まで今回のために新しく作って頂きました。

当会は地域の方々の育てた野菜や千葉大から仕入れ

たパンジー、ビオラを販売しました。朝まで花を預って頂いたご近所会員のMさん、ありがとうございました。



昨年春の城跡見学会等

松ヶ崎城まつりの半年近く前になりますが、松ヶ崎城跡の見学会は、2009年6月14日(日)午前10時から正午まで柏市との共催で行われました。

解説は柏市学芸員の吉田さんにしてもらいました。参加者は75名でした。

また、9月11日(金)には北柏駅近くの荒追遺跡(縄文時代、古墳時代、奈良から平安時代の複合遺跡で約40の住居跡を発掘)を有志30名ほどで見学しました。

(森)



松ヶ崎自然塾

昨年秋、柏市教育委員会の協力のもと、高田近隣センターにて松ヶ崎自然塾が10月15日から全五回の日程で開講され、20名の方が受講しました。

講師として当会の久川事務局長が全コマに参加し、その他ちば里山トラストも一部コマの講師をつとめました。

なお、自然塾では実地での作業体験や里山見学もありました。

今年に入り植樹がされつつある松ヶ崎城跡ですが、今年後も継続して城跡の環境整備（例えば木道の整備やベンチの設置など）や樹木の養生などの活動が必要と思われます。

(写真は昨年6月の見学会)



総会のご案内

4月29日(祝)10時から
総会場所:市民活動センター2F会議室(柏イトーヨーカドー向かい)

城跡保存活動も新たなステージに。

保存のあり方・歴史の研究、史跡見学など今後は?

なお、総会とあわせて、当日午後からは講演会を柏で開催する予定 *12時半開場

テーマ:

「保存運動と歴史からみた東葛の城と松ヶ崎城」

講師:田嶋昌治さんは北小金在住の郷土史研究家。

その他講演とあわせ絵馬写真などの展示もあります。お気軽にご参加下さい!

平成22年度の事業計画から ○松ヶ崎城祭り

○定例で歴史の勉強会を

ここ数年は保存などの活動が中心となり、歴史の研究から遠ざかっていました。以前、定例で勉強会を開催していたものを復活させたいと思います。今回は講師と日時を特定して行く予定です。

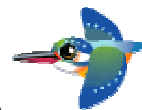
月に1回、日曜日の時間、場所も決めて、都合のつく人は自由に参加してもらいます。最初の講師は森副会長、テーマは①松ヶ崎城と手賀沼沿岸の城、②東葛地方の戦国史、③柏周辺の戦争遺跡などで4,5回を予定しています。

二人目は未定ですが、会員の中から講師を募集していきます。ジャンルは問いません。地域もテーマも自由。回数も1回でもOKです。

昨年は第一回目と言う事で、まったくの手探り状態からのスタートでした。今回は1面に記載の樹木の里親になってくれた方々、更に近隣の方々、植樹してくれたロータリークラブ、ボーイスカウトなどさまざまなグループへも参加を呼びかけていきたいと思います。

○史跡見学会など

この他、史跡見学会なども行なって行きたいと思えます。ここが見たい、こんな話を聞きたいという希望がありましたら是非提案して下さい。



(柳沢/川上)

《会費納入のお願い》

2010年度の会費の納入を5月中にはお願いします。

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会

振込先:千葉銀行 柏支店

口座番号3461475

年会費2,000円

手賀沼が海だったころ

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会
会報 第17号 2010.2.28

発行人:川上利男 編集人:森伸之

(柳沢)